

令和5年度
◆◆◆ 町 民 懇 談 会 ◆◆◆
=ダイジェスト=
金ヶ崎町総務課

去る6月19日から30日にかけて行いました「町民懇談会」の内容をお知らせします。多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。(総参加者数 226名(うちウェブ参加 139名))

I 開催日程

6月19日(月)	南方地区生涯教育センター	【参加者：26名(うちウェブ参加15名)】
6月20日(火)	街地区生涯教育センター	【参加者：40名(うちウェブ参加25名)】
6月22日(木)	三ヶ尻地区生涯教育センター	【参加者：30名(うちウェブ参加21名)】
6月26日(月)	北部地区生涯教育センター	【参加者：42名(うちウェブ参加22名)】
6月27日(火)	西部地区生涯教育センター	【参加者：45名(うちウェブ参加29名)】
6月30日(金)	永岡地区生涯教育センター	【参加者：43名(うちウェブ参加27名)】

II 時 間 各会場とも午後6時30分～

III 懇 談

主な意見・質問と回答

除雪について

【質問】昨年度に町に寄せられた除雪のクレーム件数や内容は。

【回答】令和4年度の件数は148件、除雪が遅い・来ないという内容が1番多く全体の半数を占めており、その他除雪をもっと上手に、拡幅、排雪、ザクザクとなっているので処理して欲しい、などの内容でした。なお、令和3年度の件数は約600件でした。

【質問】地域協働雪対策事業補助金において、3万円の補助金申請をしたが、計画変更による金額変更時、変更手続き(変更申請)が煩雑である。申請者も町もお互い負担ではないか。次年度何か簡略化など変更の予定はあるか。

【回答】行政の補助金手続きにおいては、金額の大小に関わらず同じ手続きとなっており、変更予定はありません。ただ、できるだけ申請者の負担とならないよう工夫はしていきたいと考えています。申請書など書類の書き方など何か相談があれば協力させていただくので中央生涯教育センターへ相談いただければと思います。

【質問】今年は例年より除雪車が走る回数が増えたように感じる。1つ気になったのは、20～30cm積雪があった際に、融雪剤を撒いたあと、1時間後に除雪車がきて除雪していた。大切な税

金を使ってまいているので無駄にならないようにしてほしい。

【回答】 そのようなことがないよう除雪業者に周知させていただきます。

【質問】 歩道の除雪を夜 12 時ぐらいにしており、車両道路は朝3～4時ぐらいに除雪しているようだが、道路の除雪作業は歩道を気にしているため、雪を端に寄せられないようだ。先に車両道路を除雪し、その後に歩道の除雪をしてもらいたい。

【回答】 道路と歩道は異なる業者が除雪を行っています。歩道の除雪は請け負っている業者が他の地区の歩道も請け負っており、通学時間に終わらせようと早い時間に作業していると思われる。車道と歩道の動きを確認しながら、いくらかでも改善できるように考えていきたいと思ひます。

【質問】 昨年の冬は雪が少なく車のすれ違いもスムーズだった。例年そうなればよいが、その年の状況によって除雪費が変わってくる。使われなかった除雪費は、余剰金として次年度に繰り越せるものか。

【回答】 除雪の予算については、様々な経費を含めて除雪費としております。除雪費用は国から助成金がきており、全て町単費という訳ではありません。色々な経費の余剰金は町予算全体として一括して次年度に繰り越しており、除雪の分だけずっと繰り越していくということはできません。

【意見】 スクールガードをしているが、以前は学校まで歩く場所を長靴で圧雪しながら歩いていた。跨線橋などでは小学生も毎日のように転んでいたが、今年除雪がしっかりされており、小学生も1回も転ばなかった。町長にしっかりやってもらったおかげである。感謝する。

【回答】 昨年度雪が少なかったという事実はあります。苦情をいただいた件数は西側(農村地域)よりも、東側(街場)のほうが多く、特に、まだ除雪がこないという連絡を一番多くいただいたところす。少しでも皆さんの考えているところとのギャップを埋められるよう、次の冬も安心して歩けるように頑張っけて取り組んでいきたいと考えております。

過疎的集落地域の人口減対策について

【質問】 町内農村部において高齢化が進み、人口減少が著しい地域もある。町全体としては若者定住対策に力を入れているが、過疎的集落地域の視点から、人口減少対策を考えているところはあるか。

【回答】 農村地域への宅地整備については、農地を宅地にする農地転用はなかなか許可がでなく難しいものです。また、例えば南方の谷地横道地区は大きな面積の住宅用地(都市計画の用途地域)で、まだまだ家が建つ場所がある中で農村地域への農地転用での宅地整備は難しい現状があります。新たな住宅建設が難しい中で、空き家の活用というのも考えられます。空き家取得時に付随する土地に農地が含まれる場合、以前は農業者になっけてもらう必要があり、農地上の制約がありましたが、この度制限が緩和され、取得したい土地にいくらか農地

がふくまれていても当人同士で成立すれば取得できるようになりました。町はこの様な制度を活用し、農業地域は農業をする人だけが住むのではなく非農家でも価値を感じる人は住んでもらいたいと考えています。一方で大区画圃場整備であれば、田んぼと宅地を作れる可能性(創設換地)があります。今後地域で圃場整備を検討し、その時に新たに住みたい人への宅地も検討していただきたいと思います。

防犯について

【意見】 防犯灯の設置について、年間どのくらい要望と設置があるか。最近、治安があまりよくなく、真っ暗な道は不安もある。自治会からも長い間要望しているがなかなか設置されない。

【回答】 各地から要望いただいて設置しておりますが、新規設置はここ数年行えていない状況です。町の予算上、定期的な新しい設置は難しいこと、また、以前は電力会社から2年に1回、数基寄贈いただき要望箇所に設置しておりましたが、電気代高騰などの背景で寄贈は見送られている状況です。町としては、個人が懐中電灯を持つことは、防犯だけでなく災害時にも役立つということで進めております。防犯は明かりだけでなく、地域の人による周りの目も必要なものです。なお、既存の防犯灯の故障については、生活環境課でLED化の対応を行っているのでご相談いただければと思います。

【意見】 子ども110番の家になっているが、この110番の旗は、すぐにボロボロになる。都度生活環境課に行って交換してもらっているが、年に1回でもいいので、町から旗を持ってきて欲しい。その際に地域の状況がどうなっているかなども情報交換ができると思う。

【回答】 子ども110番は町防犯協会の事業です。意見交換の場をなかなか設定できていおりませんが、町防犯協会にてそのような意見交換の場を検討しており、早めにそういう場を設けたいと思っております。

防災無線について

【意見】 防災無線が聞こえない。町内に防災スピーカーは何台設置しているか把握しているか。防災無線で放送している内容は何か。

【回答】 Jアラートや定時の音楽、火災予防週間時に放送をしています。町では防災スピーカーの設置台数や設置場所は把握しております。スピーカーの角度や出力ワット数など調整はしておりますが、地理的要件や天候などにも左右される場合があるため、全ての人に聞こえるようにというのは難しいところと考えております。熊の出没情報などは、数年前からいわてモバイルメールによるメールでのお知らせに切り替えるなど、防災無線でのお知らせが携帯電話やスマートフォン向けなどに変わってきております。緊急時は奥州FMでも流しているのでそちらも活用をお願いしたいと思います。また、防災無線にかわる情報伝達手法について今後検討していきます。

空き家について

【質問】 空き家について、町で新たに考えている対策は何かあるか。

【回答】 空き家対策については難しい問題で、町としては新たな対策メニューというのはありませんが、空き家利用や除去に対する助成金などの制度がありますので、商工観光課へ相談いただきたいと思います。

農業について

【意見】 地区に営農組合はなく、体調崩し農業ができなくなった人がいる。営農組合を作れば法人化に向けて進まなければいけない。営農組合ではなく、助け合い組合のようなものができるか。基盤整備を要望しても実施されるまで10数年かかる。営農組合まででなく、もう少し楽で、みんなで助け合う組合を作ることができないものか。

【回答】 営農組合になると法人化しないといけない、ということはありません。ただ、法人になると認定農業者になることができ、国の補助金や機械導入、転作の奨励金などのメリットがあります。認定農業者でなく助け合いということであれば、営農組合のまま続けていただいても問題ははありません。営農組合のような任意の組織で支え合い助け合いを進めていくのも一つの方法でもありますので農林課へ相談いただければと思います。

学校関係について

【質問】 タブレット教育などあるが、今後の教育はこれからどうなっていくか。

【回答】 町内の小中学校全生徒にタブレットを配布しており、利用も増えております。ただし、タブレットはあくまで道具で、生徒と先生が向き合っの授業が基本と思っております。また、タブレットを有効活用できるように教員も勉強をしております。

【質問】 少子化により、小学校で廃校になるところはあるのか、高校も無くなるのではないかと感じているが心配ないか。

【回答】 町内の高校は金ヶ崎高校の1校です。一番少ないときは入学生徒が30人まで減ったこともありましたが、高校の努力や町の支援で、今では2クラスほど、多い時には50、60人ほど入学するようになっております。ただし、地元の金ヶ崎中学校からの入学が少ない状況があります。これは交通の便がよいことから、町外の色々な高校へ通学できるため選択肢が多いことも要因になっております。町内には中学校は1校、小学校は5校あります。ここ3年のうちに見直さなければならぬ段階ではありませんが、幼稚園入学前までの子どもの人数がどんどん減ってきております。小学校の複式学級は、現在町内で1クラスのみですが、将来的に複式学級が増えると、やはり見直しを考えていかなければならない時代も来る心配はあります。

スクールバスについて

【質問】 スクールバスについて、乗車人数が少ない状態で運行している。乗車の距離規制あると思

うが、非効率かつ経費の無駄にならないように、距離規制をなくし、対象地区の希望者を乗せるようにしてはどうか。現在距離基準で対象になっていない世帯も税金を払っている。ポイントポイントで乗せてはどうか。

【回答】スクールバスについてはさまざま意見をいただいております、昨年度町政座談会でも要望をいただいております、距離基準の見直しを検討しています。そのために、各小中学校の保護者へどのような意見があるかアンケートを取ることを考えており、その結果を踏まえてバスの利用活用ができるか検討していきたいと考えております。

※質問・回答・意見については、要約して記載しておりますのでご了承願います。

お問い合わせ／企画財政課 政策係 ☎0197-42-2111(内線 2325)